



玉川学区の健幸かるて（令和6年度版）

【令和6年12月作成】 草津市人とくらしのサポートセンター 地区担当保健師

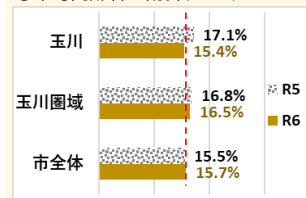
1.人口構成(R6.4.30) ※市と比較して区分割合が高い項目に赤字着色

合計(年少/生産/高齢)							
年齢 区分	0～14歳		15～64歳		65歳以上		計(人数)
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
志津	2,485	17.5%	9,265	65.1%	2,486	17.5%	14,236
志津南	1,333	20.0%	3,840	57.5%	1,502	22.5%	6,675
草津	1,589	13.3%	7,583	63.7%	2,738	23.0%	11,910
大路	1,513	12.7%	8,050	67.4%	2,388	20.0%	11,951
矢倉	1,177	12.2%	6,174	64.1%	2,288	23.7%	9,639
流川	1,317	13.7%	6,539	67.8%	1,784	18.5%	9,640
老上西	1,461	16.8%	5,361	61.8%	1,851	21.3%	8,673
老上	2,475	19.7%	7,998	63.8%	2,071	16.5%	12,544
玉川	1,305	10.6%	8,644	70.2%	2,360	19.2%	12,309
南笠東	747	9.7%	5,104	66.5%	1,821	23.7%	7,672
山田	937	12.1%	4,439	57.1%	2,396	30.8%	7,772
笠縫	1,570	14.0%	6,296	56.0%	3,371	30.0%	11,237
笠縫東	1,624	14.9%	6,449	59.3%	2,806	25.8%	10,879
常盤	648	13.3%	2,651	54.4%	1,571	32.3%	4,870
草津市	20,181	14.4%	88,393	63.1%	31,433	22.5%	140,007

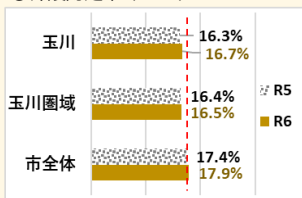
【参考:65歳以上人口割合】玉川 18.9% / 草津市 22.4% (R5.4.30)

4.高齢者の状況 (※③は、40～64歳の第2号被保険者も含む)

①単身高齢者の割合(R6.4)



②介護認定率(R6.4)



③介護が必要となった原因で最も多い疾患(R1～R2新規申請者)

【要支援認定となった人】
骨折

【要介護認定となった人】
アルツハイマー型認知症



④主観的健康観

健康状態が「とてもよい」「まあよい」と回答した人の割合
玉川:81.8%
草津市:80.2%

⑤主観的幸福感

どの程度幸せかの平均(とても不幸 0点 ~ とても幸せ 10点)
玉川:7.2点
草津市:7.0点

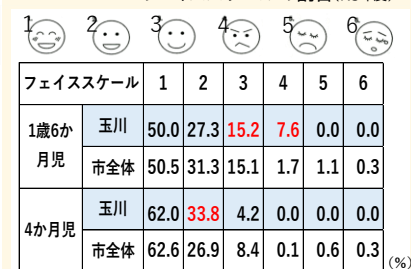


6.地域資源(地区組織活動・社会資源等)

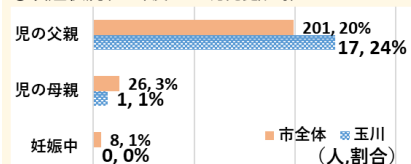
医療機関 医科:12か所・歯科:6か所	スーパー:2か所・コンビニ:6か所	地域サロン:9か所	健康推進員 13人
薬局:8か所・ドラッグストア:2か所	子育てサークル・拠点施設:9か所	町内会 4個	

2.妊娠・出産・子育て(乳幼児健診問診結果)

①育児に対する今の気持ちに近いフェイススケールの割合(R5年度)



②喫煙状況(R5年度:4か月児健診時)



③「育てにくさを感じているか」の割合(R5年度)

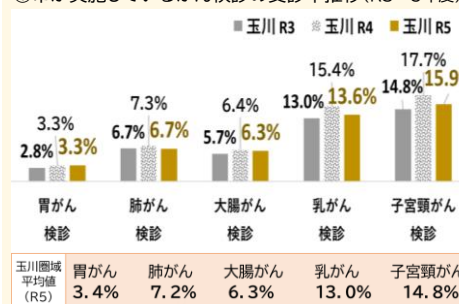


5.地域の声

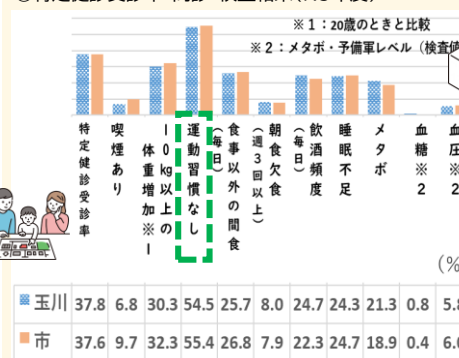
「駅近くのジムに通ったり、ウォーキングやヨガなどの運動をしている人も多いよ。」
「子育て世代や大学生も多く住んでいるので活気がある。」
「駅前マンションが建ち、転入者も増えていますが、近所付き合いは少なくなっているな。」

3.からだの健康・生活習慣

①市が実施しているがん検診の受診率推移(R3～5年度)



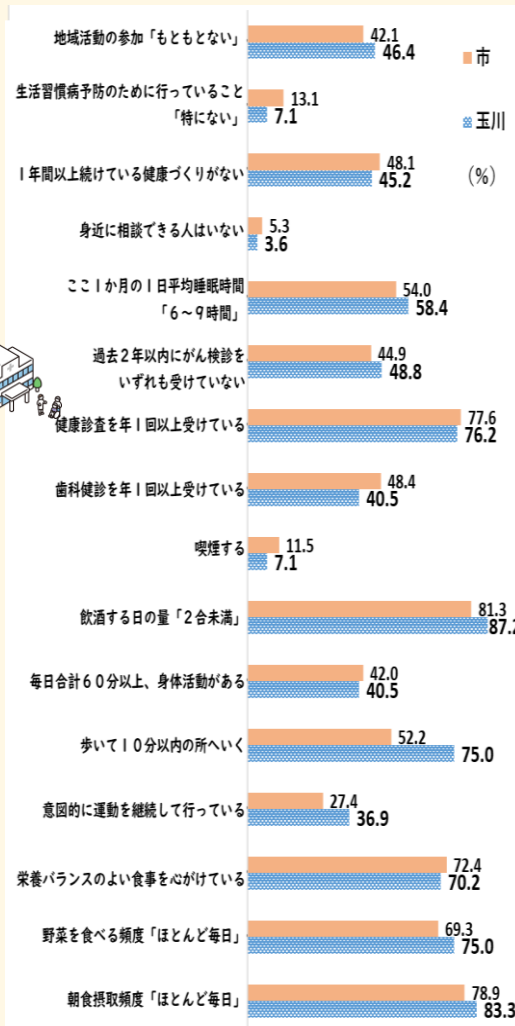
②特定健診受診率・問診・検査結果(R5年度)



～地域を取組・活動の様子～



③生活習慣 健康に関するアンケート調査結果:対象18～74歳(R4年度)



<地域の目指す1年後の姿(目標)> 玉川学区の住民が、自らの健康に関心を持ち、自分に合った健康づくりに取り組むきっかけをもつことができる

<地域の特性と健康課題>

- 学区内に大学があり、学生も多く住んでいることから、壮年人口(15～64歳)の割合は市内で最も高く、今後も人口増加が予測されるエリアです。
- 高齢化率は19.2%と市全体と比較すると低いですが、駅から離れた山の手側の住宅地では高齢化が進み、高齢化率が45%を超えているエリアがあります。
- 運動習慣がない人が半数以上であり、若い世代から高齢者まで、あらゆる世代の方々が運動を含めたよりよい生活習慣をもてるような啓発が必要です。

<健康課題の解決に向けた取組方針・活動状況>

- 学区住民の生活習慣(運動習慣や食生活等)の把握をすすめ、あらゆる世代の方々が自分の健康に関心を持ち、よりよい生活習慣がもてるよう、健康測定会や健康講座等を通して啓発を行っています。
- 特に高齢化率が高い地域では、フレイル予防の啓発や、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指した取組等をすすめています。